



関根 政雄 議員

問 青生野小学校の統合についての地域懇談をすべき

答 広く地区民の皆様方に意見をお聞きする会を立ち上げる



地域の児童教育環境が充実する青生野小学校

質問

平成15年に村内の4小学校が鮫川小に統合して既に12年が経過した。本村は現在2つの小学校となり、児童数も減少していることから、教育関係者や保護者、地域住民と共に青生野小の統合への課題を懇談し、将来を見据えた児童教育の方向性を見い出すべきではないか。

答弁(教育長)

青生野小を卒業した中学生の意見を聞いてみたい。その結果をもとに青

生野地区民の方々の意見をお聞きする会を開く。場合によっては村全体から意見を求める会を開き、意見を集約したい。

再質問

今後の青生野小の入学の見込みは何名か。

答弁(教育長)

新年度の新入生は2名だが、その後は入学生がない年と1、2名の年が交互に続く。これらのデータを示して皆さんと考えていく。

問 公共工事の一般競争入札の条件を見直す時期ではないか

答 条件については周辺自治体の例を検討した要綱であり、理解いただきたい

質問

本村の公共工事の入札は予定価格が5000万円以上は※条件付一般競争入札を導入し7年が経過している。この一般競争入札は各町村によって異なっており、他町村か

え、一般競争入札の条件の見直しが必要な時期ではないか。

答弁(村長)

業者の参加は容易であるが、本村の業者が他町村への入札参加が難しいのが現状である。本村の建設業者は年々、工事実績を重ね、現場管理者の養成にも努めている。これらの現状を踏ま

質問は予定価格の5000万円を1億円に想定していることと思うが、調査した結果、埴町は1億円であるが、町の発注基準が5000万円以上は、指定業者格付けでAランクとしているので状況は変わらない。

問 放射能検査用の農産物の賠償請求をすべきではないか

答 東京電力が開催している相談会で対応することが最善策

質問

農産物の出荷や直売所への出品の際に放射能検査が義務づけられている。東京電力は原発事故による全ての損害につ

ては賠償するとしているが、検査用の農産物の相金額は賠償請求すべきでないのか。また検査料目と相金額はいくらか。

再質問

近隣自治体の半数が一般競争入札を導入していない。また予定価格を事前に公表し、最低価格を制定している自治体もある。本村の制定はいかがか。

答弁(村長)

予定価格は入札開始の1時間前に記入している。発注する建物等により、最低基準価格を設ける場合もある。

※条件付一般競争入札

公共工事の入札参加資格要件を満たしていれば、誰でも入札に参加できる制度です。村の公共工事の予定価格が5000万円を超える場合に導入し、工事の内容により条件を制定し公示する事としています。

答弁(村長)

消費者への安心を確保するための直売所の独自の検査は東電は賠償をしないとしている。農産物の検体は5008単位で6608体であり、約3300kgである。作物の価格はその都度、判断をしない。



遠藤 貴人 議員

問 自治体への権限移譲、分権改革の為の効果的な職員研修とは

答 本村のような小規模自治体には極めて重要なことと認識している

質問

行財政改革が進み職員数も減少している今こそ、職員一人ひとりの能力を最大限に引き出し、住民の多様化するニーズに的確かつ柔軟に対応できる職員の育成が重要だと考えるが。

答弁(村長)

多様な住民ニーズに、的確かつ柔軟に対応できる職員として育成していくことは、地方自治体にとって極めて重要な課題であると認識している。為、県市町村職員研修や、ふくしま市町村支援機構で実施する研修に参加している。

再質問

役所内の窓口を一本化する総合窓口を導入して、住民にワンストップサービスを提供する取り組みが増えている。各種証明書の発行や届出等の手続きを一箇所で行える総合窓口の設置は、住民の目線に立った住民に喜ばれるサービスと考えるが。

答弁(村長)

役場の一箇所の窓口で全ての用事を済ますことの出来る村民サービスは、村民目線に立った優しい役場の対応と考える。あちこちに異動させることなく、村民の要望に応えていく為にも総合窓口の設置に努めたい。



住民サービスが求められる行政機関

再質問

適切なサービスの観点から、休憩時による自席上での昼食や、咀嚼(そしゃく)しながらの来庁者対応は適切な村民サービスではない。来庁者から見えない場所での昼食等も検討課題と考えるが。

答弁(村長)

職員の休み時間とはいえ、外来者、訪問者からすれば適切ではないと考える。慣れであつてはいけない。昼食をする場所等は持ち帰って職員と話し合いたい。

再質問

質素節約が公人の大義であるが、仕事の昼休憩時間を使って、証明書発行や納税に来庁する村民が、庁舎内が暗いと感ぜさせてしまう程の昼食時節電は行き過ぎた節減と考えるが。

答弁(村長)

気を付けているのは、受付、窓口は消さないで対応している。ただ、それ以外の部屋の節電はやむを得ない。昼休憩時に

来庁した村民にも十分応えられるように整理をする。

再質問

職員の方と情報交換する機会が増え、極めて意識が高く、職務に精励し予算獲得に努めている職員が存在する一方、その姿勢が上手く村民に伝わらない現実を、首長としてどのように考えるか。

答弁(村長)

職員も人それぞれで表現力の上手な人も、また好きな人もいる。大きな夢と希望を持って、鮫川村民のために応えたいという志を持っているのは間違いない。ただ、上司の前で提案することに勇気の要る仕事であることも事実。その辺りの慣習を配慮しながら、若い人の意見を採用して村の振興に努めていく。



前田 武久 議員

問 氷結による危険道の改良の現状と計画は

答 アメニウレタン工法で施工計画している

質問

村道新宿古殿線、石井草地区、通称流石(さいし)、延長距離約200メートル区間は、冬期間日照がほとんどなく、急カーブで傾斜もきつく、降雪降雨による氷結で地域住民から交通の難所、魔の道路と恐れられ、住民生活に支障を来している。現在まで多少の改良や融雪散布や、日陰木の伐採など手を加えられてはいるが未解決であり、思い切った対策を進めるべきと考える。そこで、次の3点が考慮される。

- ① 防雪屋根の建設
- ② 迂回道の建設
- ③ トンネル工事の建設

が上げられるが、村長の所信を伺う。

答弁(村長)

お尋ねご指摘のとおりであり、村道新宿古殿線は、新宿地内を拠点とし、大字石井草字森ノ前地内を終点とする約2.2キロで、質問にある流石地区は冬、降雪により路面凍結し危険であるため、平成21年度日陰木の伐採、25年度小型散布機に

よる、融雪剤散布を実施してある。提案されておる事業は、いずれも一億以上の事業費がかかる、国庫補助事業の採択が厳しい、現在この路面補助率70パーセントで舗装打ち直しをしている。流石は危険箇所として凍結抑制舗装工法で施工し、スリップ事故防止を図り、交通の安全を確保する。

再質問

一番手っ取り早い解決策は防雪屋根の建設であるが、それ等の調査資料を準備されたのか。

答弁(村長)

流石の工法はアメニウレタン工法で考えており調査、資料は検討していない。

再質問

アメニウレタン工法の道路通行の体験がない。もしもこの工法で解消されない場合、どう対処されるのか。

答弁(村長)

この工法が一番経済的で費用効果があると考えられる。これがだめなときは新たな提案をさせていただく。

再質問

鮫川は納税完納をもって特別交付金が交付され財調基金もある、住民が強く要望する危険箇所に対応してもおかしくない。舗装改良着工区間今年度分事業が中断された状態であるが、その理由と完成時期は。

答弁(村長)

実は舗装工事まで当初予算だったが路盤コート一部舗装だけで予算が終ってしまった、来年度予算つき次第の工事になる。3年間で2.2キロ、計画が4年になるかも。次の予算には理解していただきたい。

再質問

中断されている区間今年度に舗装されない、4年かかると言うアメニウレタン工法は、いつやられるのか。

答弁(村長)

ウレタン工法を含めて4年の計画、工法は4200万円平成30年迄の4年間で森の前までの改修となる。

再質問

舗装しないで中断されている区間、乳剤処理されてあったが、現在穴だらけ、住民生活に影響する、今年度中仕上げてやる方策は。

答弁(村長)

誠に申し訳ないが今年度中難しい、路盤の整備だけ、かならずやらせる。詳しくは担当課長から答弁させる。

答弁(地域整備課長)

上層路盤の上に乳剤を散布し砂をまいた状態で次年度舗装になってしまった、穴があいたり凍った所は定期的に点検

し通行に支障のないようにする。

再質問

説明は分かるが現在は穴だらけ、今補修しないと住民が困っている、すぐやると約束していただきたい。

答弁(村長)

砂利の状態です支障のないよう村が管理する。

【アメニウレタン工法】

排水性舗装の走行部分に弾性のあるウレタン樹脂を浸透・充填させた凍結抑制舗装。

走行車両の荷重で当該舗装部がたわみ、舗装表面の雪水のはく離・破碎を促進し、路面露出率を高める。

また、凍結抑制効果に加えて、降雪が路面に付着しにくい特性があり、除雪が効率よく行える。



改良が待たれる流石地区

追跡!

第2弾

過去に、行われた一般質問の結果を検証します。

どうなったっぺ?

あの一般質問

質問・提言

村道唐露葉貫線は、大雨の度に濁流が民家に迫る。住民の安全安心のために早急に整備すべき。

平成25年9月定例議会
平成26年9月定例議会

答 弁

道路パトロールを強化し、砂利が流れないように維持管理に力を入れる。また危険箇所や未舗装箇所の整備を計画的に進める。

経過及び結果

平成28年度からの過疎自立促進計画の5ヶ年計画にのせて整備計画を準備中である。

さらに道路パトロールと維持管理は強化している。



計画的な整備が求められる村道唐露葉貫線

質問・提言

障害者福祉施設の充実と日常生支援、グループホームの整備促進を支援すべき。

平成26年6月議会
平成27年9月議会

答 弁

鮫川福祉会「たんぽぽの家」では準備委員会を設立し協議を進める意向であり、計画が示された段階で支援を検討する。

経過及び結果

施設では役員、職員、保護者により設立準備委員会を立ち上げて、施設の概要を協議し視察研修を重ねて、行政への支援を求める準備を進めている。



グループホーム建設が急務の障害者福祉施設

質問・提言

さぎり荘の高齢者団体利用スペースの確保と休館日（年末年始）の見直しを図るべき。

平成23年12月議会
平成26年3月議会
平成27年12月議長名で要望書を村長に提出

答 弁

職員と相談し、高齢者の要望に応えたい。休館日については職員4名体制では変更に限界がある。さらに村民の声を聞き検討する。

経過及び結果

一昨年末は12月31日から1月4日までの5日間の休館とし、今年は元日と2日の休館で、昨年と比較して3日間開館日を増やしたが、これは臨時的な改定としている。



年末年始の開館を3日間増やした「さぎり荘」

※定例議会での「一般質問」は議員の「政策提言」や、「村民の皆様の声」を村政に反映できる唯一の場となります。しかし事業計画には慎重な検討が必要であり、費用対効果や予算措置の諸事情により時間を要する場合があります。

村民の声を要望書にして村長に提出

さざり荘の休館日の見直し、湯の田温泉の活用など



村長に要望書を手渡す議長、副議長、常任委員長

この要望に対して村長は「さざり荘の休館日は元日のみとし、2日は午後から開館するように職員と協議したい」としました。

- 一、年末年始の開館の見直し
- 一、周辺の環境整備と村民のみが利用できる施設の新設と足湯の併設
- 一、元湯からの源泉を村民に供給すること

村民保養所である「さざり荘」について、星一彌議会議長が村長に要望書を提出しました。これは広く村民から寄せられていた要望を届けたもので概要は次のとおりです。

鮫川村議会は「村民から信頼される議会」を目標として広く村民の皆様からご意見や提言を寄せていただき、議会モニターを公募しました。村民の皆様から6名の応募があり、モニター設置要綱をご理解していただいたうえで、星一彌議会議長より各モニター様へ、委嘱状が交付されました。任期は1年とし多くのご意見が寄せられることが期待されます。



議長から委嘱状を交付される議会モニターの皆様

議会モニターの皆様

氏名(敬称略)	地区
蛭田 昌一	渡瀬
高橋 康治	西山
北條 美子	西野
長井 進	青生野
宗田 真弓	中野
窪木 浩一	東野

村民の声が反映される議会を目指して
議会モニター制を導入

村民の広場

村民の皆さんに信頼され、身近な議会づくりを目指すために、子ども達をはじめとする村民の皆様にご登場していただくページです。

議会傍聴記



高橋 教子 さん
(大字西山字押野)

初めての傍聴でした。厳粛な雰囲気の中で、6人の議員さんの一般質問により答弁がなされ、その熱心で真摯な姿に感激しました。しかし、そこには一貫した方向性が見えないと感じました。一般質問の中にも、通常の議員活動の中で役場の窓口や村長とのコミュニケーションで解決できる課題ではないかと感じるものもありました。

- ### 3つの方向性
- ① まめな暮らしを生かした村づくり
 - ② 人が集まる美しい村づくり
 - ③ つながりを生かす村づくり

このような目指す村の姿や方向性を実現するために計画されている施策とその進捗を村長さんと役員職員の方々と、議員さん、私たち村民、三者がみんなで共有し、常に意識することこそ、実現のための第一歩だと思います。

次に、三者の信頼関係が大事だと感じました。不信感漂う答弁、一般論やそれぞれの価値観のやり取りに終始する答弁もあり、少々残念な気持ちになる場面があったから

です。鮫川村では、各世代で村を支え、盛り上げようと頑張っている人たちが多く、その意気込みを強く感じます。その想いは

とても尊いと思います。村民の想いを反映するために、三者に信頼が深まることは、目指す村の実現のための一歩だと思えます。そのためにお互いの立場からのコミュニケーションが必要で、疑問や意見、提案は積極的に発信していくことが大事だと思います。特に村民と議員さんとの議会への関心が高まるきっかけになり、村づくりへの意欲も高まり、さらには村の振興の推進力となっていくものと思います。

このようなことを考える機会を与えてくれた議会傍聴は、とても貴重な体験となりました。村の目指す方向に沿って、村民の声を取り入れた積極的で肯定的、具体的な議論がなされる議会に期待したいと思えます。

私たち一人一人が主役です。小さな村ならではの機動力を生かし、それぞれの立場で連携、協力しながら、笑顔あふれる村に、みんなが幸せを感じる生活の実現に一致団結して向かっていけたらいいなと、傍聴後感じる

ところですが、いかがでしょうか？ 皆さん議場でお会いしましょう。

私の夢シリーズ③



蛭田 樹璃さん
(鮫川小6年生)

私の将来の夢は、医者になることです。

私は、昔から理科が大好きで、生き物や植物などの観察をよくしていました。また、科学館や博物館によく行き、特に須賀川市にあるムシテックワールドに通っていました。それをきっかけに、理科の授業がとても面白く感じるようになりました。

しかし、その頃はまだ医者になろうとは思っていませんでした。4年生の頃に学校の授業で習った『人の体の仕組み』がとても面白く、その頃から医者になりたいと思うようになりました。また、ちょうどその時期に膝をけがし、その時診てもらったお医者さんが、女医さんでした。スポーツもやっており、親切にわかりやすく症状を教えてくれ、また、その機能訓練方法もとてもいいに教えてくれました。その女医さんがとてもかっこ

よく見えました。それから、強く医者になりたいと思うようになりました。

6年生の夏休みに、県南教育委員会が募集した塙厚生病院と寿恵園と白河オリンパスの見学学習に参加しました。塙厚生病院では、手術着に着替え実際に手術器具を使用して傷口を縫う練習をしました。また、検査室に入り血液や尿を大きな顕微鏡で見せていただきました。オリンパスでは、内視鏡の使い方を教えてもらい、人体の胃の模型を使用して内視鏡で胃のポリープを探したりもしました。

それから、栃木の国際医療福祉大学病院のキッズスクールにも参加しました。ここではCGで手術体験をしました。メスで切る時にリアルでとてもドキドキしました。眼科では、特殊な眼鏡をかけ白内障や緑内障の体験をしました。すぐ見にくく患者さんの世界が良くわかりました。言語障害のところでは、人工喉頭を使用して話をする体験もしました。

これらの体験を通して、医者の大変さをすごく感じましたが、この仕事をもっと知りたいと思いました。

私が医者になるために今がんばっていることは、全教科の学習をしっかりとやり、テストでも良い点を取れるように努力することです。そして、たくさんの経験をすることだと思います。将来に向けて、夢に向けて、しっかりと努力していきたいです。

ふるさと鮫川への想い シリーズ⑬



関根 廣次さん
(大字西山字余所内出身)
千葉県八千代市在住

◆プロフィール

【生年月日】 昭和25年6月27日
昭和44年 郡山工業高校卒業、
東京電力(株)入社(猪苗代電力所)
平成18年 東京電力退職
平成24年 公益社団法人日本電気技術者協会
平成27年 同上 会誌「電気技術者」編集担当
(現在に至る)

【家 族】 (妻、長女：同居)、
(長男、二男)

【趣 味】 読書(乱読)

初めに、東京電力に勤めていた者として、福島第一原子力発電所事故により福島県民の皆様、また、我がふるさと鮫川の方々に大いなるご迷惑をおかけしてい

て、誠に申し訳ありません。心からお詫び申し上げます。私は昭和25年に鮫川村大字西山で生まれ、18歳で東京電力に就職、20歳まで、

福島県で過ごしました。

私にとつてのふるさと鮫川村は、帰ってホットする、思いつきり大きく深呼吸したくなる場所です。

中学校は隣の浅川に自転車通学でした。行きは下り坂で楽なのですが、帰りは堅石(たていし)など、ペダルを漕いで登ってくるのに難渋するほどの坂が続きます。夏の夕方、クラブ活動などで帰りが暗くなると、あたりに人家のない寂しい道を一人で自転車を漕ぐと周りを蛍が飛んで元氣付けてくれたのを今でも思い出します。そのためか足腰は鍛えられました。

田舎は今でも年に数回、休みができると帰ります。なぜ帰るのかと問われたら、やはり兄弟や叔父が住んでいること、また、青々とした山々、また、その匂いに包まれたと思うから、山菜が食べたいから、清涼な朝夕の空気に包まれてエアコンなしでぐっすり眠りたいからなのです。今は電気主任技術者の中

心にした日本電気技術者協会という組織で、同人雑誌「電気技術者」の編集を一人で担当し毎月発行しております。慣れない仕事で暇など持てませんが、これからも休みを作つてはふるさとに帰らさせていただきたいと思ひます。

私にとつてのふるすとは、山々に囲まれて、飾らずに見知つた方々と語り合える唯一無二の箇所であり、これからも、しばらくは通わせていただきたいと思います。



我が家で昨年生まれた孫と

**議会傍聴を
お願いします**

ここ数年間、村民の皆様の議会傍聴者数が少しずつ増え続けています。1年に4回開催される定例議会や常任委員会はどなたでも傍聴ができます。次回議会は3月上旬の予定です。

ご寄稿者の依頼

ふるさと鮫川村から離れられてご活躍されている方々からの寄稿を募集しています。是非ご紹介ください。

議会事務局(49-3198)

編集後記

穏やかな日の中、村内でも正月の三が日の気温が10度を超える例年になり平成28年を迎えました。

鮫川村議会は今月から「信頼される自主性ある議会」を目指すために村民の皆様の中から「議会モニター」を6名の方々に依頼する事となりました。

これからも村民の皆様により「分かりやすい議会づくり」に努めますので、多くの皆様に議会だよりを読んでいただき、ご意見とご支援を賜りますようお願いいたします。

(編集委員)